**ネルソン・ゲルナー（ピアノ）**

**Nelson Goerner, Piano**

現代を代表するピアニストとして活躍するゲルナーのピアノは、最高に芸術的であり、詩的で、驚くべき音楽性を誇る。その爽快で確信に満ちた演奏は、世界中の聴衆を惹きつけている。

世界各地の一流ホールでリサイタルを行っており、2024/25年シーズンにはパリのシャンゼリゼ劇場とフィラルモニー・ド・パリ、ロンドンのウィグモアホール、リヨンのラ・ロック・ダンテロン、ブリュッセルのクララ・フェスティバル、マドリードのスケルツォ財団によるピアノ・シリーズ、ソウルのクムアートホール延世、東京の浜離宮朝日ホールなどで演奏する。また今シーズンはロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、NHK交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ダラス交響楽団と共演し、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団とはスペイン・ツアーを行う。

これまでウラディーミル・アシュケナージ、マーク・エルダー、フィリップ・ヘレヴェッヘ、ネーメ・ヤルヴィ、パーヴォ・ヤルヴィ、ジョナサン・ノット、ファビオ・ルイージ、ヴァシリー・ペトレンコ、エサ=ペッカ・サロネンらの指揮のもと、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、パリ管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、マリインスキー劇場管弦楽団、NHK交響楽団などの著名オーケストラと共演を重ねてきた。またザルツブルク、ラ・ロック＝ダンテロン、ジャコバン・ピアノ・フェスティバル、グランジュ・ドゥ・メレ、ツィナンダリ、エディンバラ、ヴェルビエ、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、BBCプロムスなどの国際音楽祭にも度々招かれている。2021/22年シーズンにはブリュッセルのフラジェでアーティスト・イン・レジデンスを務め、2022年にフラジェ・ピアノ・デイズ・フェスティバルを開催。G.マルトゥッチのピアノ協奏曲第2番をブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団と共に演奏した。

室内楽にも精力的で、マルタ・アルゲリッチ、ルノー・カプソン、ソル・ガベッタ、ゲイリー・ホフマン、テディ・パパヴラミらと定期的に共演しているほか、2024/25年シーズンには、ニン・フェン、エドガー・モローと結成した新しいトリオで、ヨーロッパ各地で公演を行う。

ゲルナーはブエノスアイレスのモーツァルテウム・アルヘンティーノと強い関係で結ばれており、長らく関係を築いてきたワルシャワのショパン・インスティテュートからは独創的なレパートリーを収録したアルバムを数多くリリース、ディアパゾンドールを複数回受賞している。最近では、2019年にリリースしたL.ゴドフスキーの作品やI.パデレフスキのモニュメンタルな「創作主題による変奏曲とフーガop.23」などを収録したアルバムがこの賞を受賞した。

また、アルファ・クラシックス・レーベルからも多くのディスクを世に出しており、リスト、アルベニス、ショパン、ベートーヴェン、ブラームス、ドビュッシー、シューマン、フォーレ、そしてフランクなどの作品を取り上げている。これらの録音は高い評価を受けており、2024年のリスト作品の最新ディスクはフランス・ミュジクに称賛され、ブラームス作品はグラモフォン誌のエディターズ・チョイスに、ドビュッシー作品はディアパゾンドールに、シューマンのアルバムはBBCミュージック・マガジンのレコーディング・オブ・ザ・マンスに、ショパン作品（前奏曲）のアルバムはショク賞やディアパゾンドールに選ばれ、ベートーヴェンの「ハンマークラヴィーア・ソナタ」の録音は特に大きな称賛を受けた。また、ポーランドで最も栄誉のある文化的な賞「グローリア・アルティス・アワード」に加え、2019年にはブエノスアイレスのコネックス財団よりコネックス・プラティナム・プライズを受賞している。

＊＊＊

1969年、アルゼンチンのサンペドロ生まれ。5歳でホルヘ・ガルッバに師事し、その後ブエノスアイレス高等音楽院でフアン=カルロス・アラビアン、カルメン・スカルチオーネの薫陶を受けた。1986年にブエノスアイレスで開かれたフランツ・リスト国際コンクールで第1位を受賞。ゲルナーの才能を認めたアルゲリッチからは奨学金を授けられ、ジュネーヴ音楽院のマリア・ティーポのもとで研鑽を詰んだ。1990年にはジュネーヴ国際コンクールで第1位に輝く。

現在、妻と息子たちとともにスイスで暮らし、ショパン・インスティテュートのアーティスティック・アドバイザリー委員も務めている。また、人道支援団体アマラを積極的に支援している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（1816字／2024年7月現在）